

## (2) 岐阜県立吉城高等学校における実践

### < 授業実践 >

#### 授業実践に向けての構え

今年度は、中学校3年間の学習内容を確認しながら、言語運用能力の4技能の基礎となる英語を聞き取り、相手の意向を把握する能力と、自分の考えを表現する能力の育成に力を入れた。英語を話す能力をつけるためには、より多くの英語を聞き、より多く英語を話す練習が何よりも必要である。そのため、学校現場で利用できるものは全て活用する気持ちで授業に取り組むと同時に、ALTにも生徒の中に入れてもらいながら、できるだけ多くの英語を聞かせ、話させることで、英語を使うことに対する抵抗感をなくすようにした。また、教科書には、習得させたい基本構文が豊富かつ内容を伴った物語が多く収録されており、これらの英文をCDやテープ等も利用して聞きながら、徹底して音読練習をさせることで、生徒が実感をもって英語を使えることを目指そうと考えた。

#### 第1回授業交流研究会

【期日】 平成18年7月3日(月)

#### 【公開授業】

- ・ 単元名 Lesson 4 THE LAND OF PETER RABBIT ( 英語 )
- ・ 授業学校・学年 吉城高等学校 1年
- ・ 主な提案内容

メールと会話によるバーチャル紀行を通して、ピーターラビットの故郷が昔のままの環境で管理されていることを学習する。単元で使われる基本文の発音ができるように口頭練習を徹底する。旅行に関する会話表現を用いて対話ができ、必要な情報を得ることができるようにする。内容を理解したうえで、発音やイントネーションを意識して本文をスムーズに音読できるようにする。内容に関する英語の質問にも英語で答えることができるようにする。

#### 【授業研究会】

- ・ 英語を聞く機会、読む機会が豊富に盛り込まれていて生徒が常時英語に接している。
- ・ 小テストは、パート毎にDictationと語彙の小テストを実施している。
- ・ 中学校では授業の中で語彙・構文を理解させるが、高校では予習を前提としており、授業は内容理解の確認が中心になっている。
- ・ 授業の進度についていけない生徒の指導については、復習ノートを提出させ、個別指導を行っている。
- ・ できれば、授業の冒頭で英語による導入が望まれる。英問英答にALTを活用する。
- ・ 日本語で英文の内容把握を確実なものにすることは状況に応じて必要だが、理解できたことをどのように英語の活動に結び付けるかを考える必要がある。
- ・ 中学校3年間の指導の成果を、高校がどのように受け止め、進めていくかを考えなければならない。中学校では単元全体の目標を前提に、その時間をどう位置付けるかを考えている。一人一人の学習進度を把握し、どのように指導していくかを考慮すべきである。
- ・ 言語の使用場面を考慮する必要がある。
- ・ できるだけ教員が英語を使って授業を行うことが生徒に英語を使わせる原動力になる。
- ・ 英語を積極的に使う手立てとして、絵やフラッシュカード等を利用する。

## 第2回授業交流研究会

【期日】 平成18年11月6日(月)

### 【公開授業】

- ・ 単元名 Lesson 7 One Step Beyond ( 英語 )
- ・ 授業学校・学年 吉城高等学校 1年
- ・ 主な提案内容

地雷廃絶運動に献身したクリス・ムーン氏の自伝の内容を理解し、世界平和について考える。事前に予習・復習についてのアンケートを実施したところ、家庭での音読習慣がついていないことがわかった。そこで、授業内で音読練習を徹底させることにより、音読を習慣化させたい。また、音読練習をすることで、英文を意味のかたまりとして把握し、英語の語順による理解を促進させることを目指す。

### 【授業研究会】

- ・ たくさんの英文を覚えることにより、簡単に応答できるようになる上、日本語と英語が一对一でないことを発見できる。生徒が時間を見つけて自分から読むようになった。立たせて読ませることが良い刺激になっている。
- ・ 中学時代と比較して、生徒たちの発音の上達ぶりに音読の効果が伺えた。英語への変換もうまく行えている。口頭英作文で、生徒のやる気も出ており、コミュニケーションの必然性が生じていた。
- ・ 中学校では一人一文ずつを読ませているが、高校は一人1パラグラフで、違いを感じた。音読をさせる必然性を抱かせる指導を行っている。中学校での音読は区切り・発音・音調等で子供たち自身でレベルを設定して、個人個人で練習している。音読からWritingへつながるといことも中学校では見られるため、音読には効果がある。
- ・ 英語で指示を出す機会をもっと増やした方がよい。
- ・ リスニングに関して、英語での導入を取り入れ、焦点を絞った英語の質問をした方がよかったのではないか。
- ・ 内容理解の理想的な形は、読んで理解した内容を自分の学んだ英語でまとめ直すことである。まとめ直したことを英語で話すことを次の目標として、読み取ったことをまとめる練習をすると、英語が教科書に書いてある活字に終わらず、自分の獲得した言葉として生きてくる。
- ・ 最終的なゴールは何かをはっきりさせることが大切である。音読指導がどのような目的をもってなされているかを明確にする必要がある。音読練習は大抵、意味理解の後に行われるもので、理解が深まればそれだけ音読表現にも効果が出てくる。

### <グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

【期日】 平成18年11月20日(月)

【受験者】 3年生38名

### 【結果分析及びその活用】

- ・ セクション (リスニング) が80%以上の得点率で、昨年より10%向上した。
- ・ セクション (語法・作文力) (読解力) に関しても75%を超える得点率であった。今年度、高得点を目指すために英語を多く聞かせてきたことが功を奏した。特に生徒の語彙力を増やすため、英文を多く読ませる指導を実施してきたこともよかった。読んだ本の題名と簡単な読後感想を所定用紙に書いてもらい、さらに読むように激励した。

## < 学習環境の充実 >

### 英語学習教材の活用

- ・英語検定用問題集を購入し英語検定試験（面接試験）に備え、試験日2週間前より、英語科職員で受験者全員に対し模擬面接を実施した。
- ・リスニング用CDを使って、平成18年10月より週3回、早朝リスニング講座を開講し、現在まで継続している。センター試験リスニング導入に対応できるよう集中トレーニング教室を設けた。
- ・生徒の読解力を高めるための英語読本を、基礎、中級、上級に分けて揃え、希望生徒に貸し出ししながら、英語多読ライブラリーとして英語をより多く読ませる指導をしている。現在までに、延べ300人を越える生徒に貸し出し、生徒も親しんで読んでくれている。今年度はCD付きの読本も購入し、目で読むだけでなく、耳からも聞いて楽しめるように、設備をより充実させたい。

### 外部講師による講演会

- ・平成18年11月30日（木）「21世紀に求められる英語力とその学び方」と題して、東京国際大学言語コミュニケーション学部教授 新里眞男先生に英語と日本語で講演をしていただいた。今世紀に求められるコミュニケーション能力を具体的に分析し、それに見合った英語力をどのように身に付けていくべきかを生徒達に教えていただいた。講演後、生徒と直接話し合う機会も設けていただき、生徒にとって今後の英語学習へのさらなる強い動機付けになった。

## < 成果と課題 >

中学校の英語の授業では生徒達がペア・ワークで学習に取り組んでいる姿が印象的であった。生徒一人一人にきめ細かい指導がなされていて、参観していて学ぶことが多かった。ペア・ワークで英語を学ぶことで自分が表現する英語に対する反応がすぐわかり、学習に積極的に向かっていた。

単元の目標が明確化されていて、ALTによる授業導入も大変効果的であった。、言語の使用場面が十分に考えられており、生徒が必然的に英語を使うように仕組まれていた。生徒に英語を使わせようとする授業者の姿勢に学ぶべき事が多くあった。

高等学校の英語の授業においては、扱う題材の量が中学校に比べて格段に増え、どうしても授業の進度が速くなってしまふことが多いが、生徒の知的好奇心を駆り立てる指導を工夫をするようになった。授業以外で高校生の知的レベルを考慮した教材（英語多読ライブラリー等）を数多く用意することで英語理解力向上を図ることができた。そのことは2年間にわたって実施したTOEFL-LTPの結果分析から見ても、「英語を聞き取る力」、「語法・作文力」、「読解力」がそれぞれ向上したことで納得できた。

高校1年生の英語授業を実施するために、事前に中学校の教科書の学習内容を把握する必要性を昨年度以上に強く感じた。中学校での英語指導をより深く理解するためにも、高校側より英語科教員が中学校に決められた授業交流以外に定期的に訪問し、中学校での英語授業をもっと参観し研修する事を計画したが、毎日の授業に追われ実現できなかった。しかし、中学校では3年間で英語の基礎を教えることに力を注いでいることが理解できた現在、我々高校の英語科教員はそのことを謙虚に受け止め、常に生徒の学習進度を踏まえた授業を行うため

にも復習を徹底しなければならない。英語を学ぶことは自分自身の見識を広げることになる。英語を聞き、話し、読み、書くことが楽しみになれば、教えることも楽しみながらできるのではないか。楽しみながら授業を展開できるようになるために、今後、さらなる自己研鑽を積み重ねていきたい。